

かさかけ 公民館だより

編集
笠懸公民館編集協力員会
みどり市笠懸公民館
発行
みどり市笠懸公民館

〒379-2311
みどり市笠懸町阿左美1581-1
電話：0277-76-2211
FAX：0277-76-2836
Eメール：kouminkan
@city.midori.gunma.jp

笠懸地域文化祭始動

第1回実行委員会

ここ2年新型コロナウイルスの影響で中止になっていた笠懸地域文化祭、本年度は実施の方向で6月30日(木)に第1回実行委員会が開催されました。

参加は展示33、イベント15、ステージ18、ダンスライブ24の合計90団体です。新型コロナウイルスの感染防止対策を盛り込んだ開催方法など、文化祭の運営全体について協議しました。

今後、感染が拡大した場合の対応について協議され、開催日までに緊急事態宣言



▲第1回実行委員会(全体会)の様子

が発令された場合や、開催1ヶ月前から当日までにまん延防止等重点措置が適用された場合は、文化祭を中止することが決まりました。

また、文化祭のサブテーマを、「みんなの思いをのせて」に決定しました。

今年度は、コロナ対策のため、集客より参加者の活動成果の発表を優先し、イベントは、ミニトレインやサーカス公演、簡単工作などを予定しています。

実行委員長の高野さんは「2年間コロナで中止となっていたので、楽しい文化祭になるよう皆さんの協力をお願いしたい」と話していました。

実行委員会終了後、部会に分かれ、今後の取り組みなどについて協議されました。

【役員体制】 敬称略

実行委員長 高野 富由美
副実行委員長

各部会の部長が兼ねる

○展示部会

部長 松栄 準治
副部长 小森谷 玲子
藤生 めぐみ

○イベント部会

部長 星 隼人
副部长 松井 栄二
須藤 キン

○ステージ部会
部長 精廣 美千江

3年ぶりに開催

郷土芸能祭

第21回笠懸地域郷土芸能祭が6月17日(金)から19日(日)にグンエイホールパルで笠懸地域文化協会の主催で行われました。

写真、盆栽、書道、仏画、手作りバッグなどたくさん展示がありました。

6月19日(日)のステージはフラダンス、詩吟、舞踏、剣舞、大正琴、神楽、和太鼓と天気にも恵まれ会場には約300人の観覧者が訪れました。

出演者は2年間コロナの影響で開催できない間、続けていくこと、伝えていく

副部长 松井 静枝
関口 伸子



▲部会の様子

ことの難しさを感じながら、練習場所を探しました。マスクをしながら頑張ってきた成果を披露し、観客も色々な思いを感じた3年ぶりの芸能祭となりました。

ステージ終了後は恒例の抽選会が行われ、こちらは3年分のたくさん景品が用意され大いに盛り上がりました。



▲フラダンスの発表

コロナ禍での公民館活動に関するアンケート

公民館利用者の会(その1)

笠懸公民館利用者の会では、令和3年3月に164の公民館利用団体を対象に、「コロナ禍での公民館活動に関するアンケート」を実施し、120の団体から回答を得ました。ただし、このアンケートはコロナウイルス感染症の拡大が始まった当初(令和2年4月～令和3年2月)を対象にしたものであり、アンケート回収後も蔓延は拡大し、令和4年現在においても新型コロナウイルスの感染は収束しておらず、感染防止対策をとりながらの公民館活動が続いています。ここではアンケートの主な項目の集計結果と利用者

の会としての考察を掲載します。コロナ禍で公民館が開館していた令和2年6月～12月について、団体・サークルの約20%が活動を停止し(図1)、活動していた団体でも約62%が活動を縮小し(図2)月について、団体・サークルの約20%が活動を停止し(図1)、活動していた団体でも約62%が活動を縮小し(図2)【3面に続く】

ていました。縮小の内容は、短期間の活動休止、活動の回数や時間を減らす、参加人数を減らすなど。前例のない新型コロナウイルスへの警戒心が多く利用者を活動縮小に方向けさせました。

いづもまつり中止

笠懸地域いづもまつり第1回実行委員会を6月29日(水)、笠懸公民館で開催しました。いづもまつりは、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2・3年度は中止とされていました。各団体から選出された実行委員から正副実行委員長を選び、今年度の開催について協議しました。

【役員】(敬称略)
 ・実行委員長 阿左美 文雄(子育て連)
 ・副実行委員長 田中 由郎(青少推)
 舟山 洋(市P連)

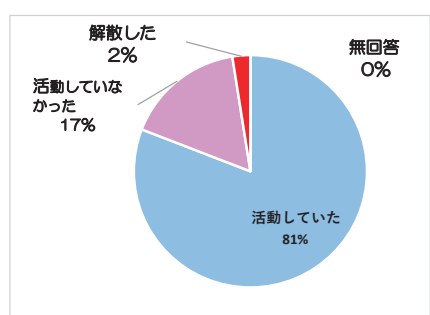
いづもまつりは、笠懸まつりが桐生競艇場での11月開催に変わり、例年と同内容・同日開催は困難であり、また、新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底した上での事業実施は困難として中止と決定しました。今後は、来年度のいづもまつり開催に向けて協議を進めていく予定です。

【図1】

問1. 公民館が開館していた令和2年6月～12月の活動状況について

No.	開館中の活動	団体数	割合
1	活動していた	97	80.8%
2	活動していなかった	20	16.7%
3	解散した	3	2.5%
4	無回答	0	0.0%

120

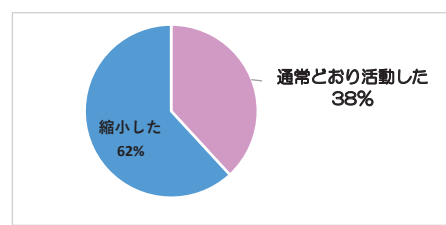


【図2】

問2. 新型コロナウイルスの影響で活動の回数を減らしたり、時間を短縮するなど、活動を縮小していますか。(令和2年6月～12月に活動していた団体のみ回答)

No.	活動していた団体	団体数	割合
1	通常どおり活動した	37	38.1%
2	縮小した	60	61.9%

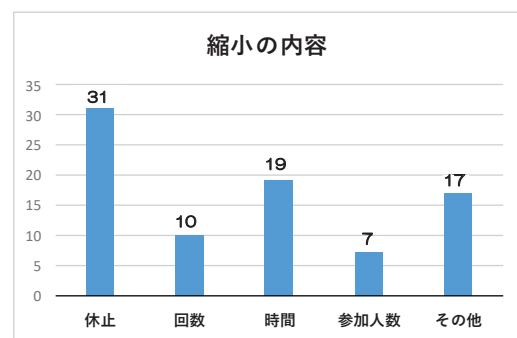
97



2) 縮小の内容(複数回答)

No.	縮小の内容	団体数
1	活動を休止	31
2	回数を減らす	10
3	時間を短縮	19
4	参加人数を減らす	7
5	その他	17

84



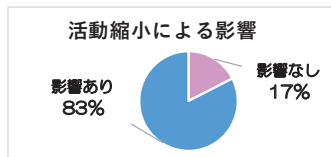
※「活動を休止」は月単位程度の休止

【図3】

問3. 問2で縮小したと回答した団体にお伺いします。活動の縮小による影響はありましたか。

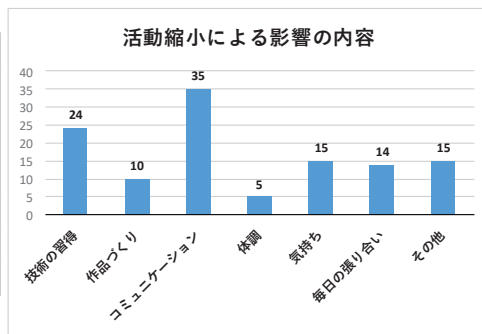
No.	影響	団体数	割合
1	影響なし	11	17.5%
2	影響あり	52	82.5%

63



活動縮小による影響の内容

No.	影響の内容	団体数
1	技術の習得	24
2	作品づくり	10
3	コミュニケーション	35
4	体調	5
5	気持ち	15
6	毎日の張り合い	14
7	その他	15



活動を縮小したことによる影響として最も大きいことに「コミュニケーション」が挙げられていました。次に「気持ち」、「毎日の張り合い」と続きました。これは、公民館が利用者のコミュニケーションの場であり、活動が張り合いや日常生活の気持ちに作用していると

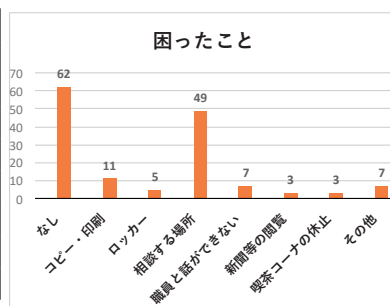
考えられています。(図3) また、公民館が休館したことでも困ったことという設問でも「会員同士で相談をする場所がない」と49団体が回答し(図4)、コロナ禍の活動では約73%が「交流の機会が減った」と回答しています。(図5) 交流が減った内容としては、会

【図4】

問10. 公民館の休館中(令和2年4月~6月、12月~令和3年2月)、公民館の部屋が使えないこと以外に、休館で困ったことはありましたか。(複数回答可)

No.	困ったこと	団体数
1	なし	62
2	コピー・印刷ができない	11
3	ロッカーが使えない	5
4	会員同士で相談をする場所がない	49
5	公民館職員と話ができない	7
6	ロビーの新聞等の閲覧ができない	3
7	喫茶コーナーべちゃくちやの休止	3
8	その他	7

147



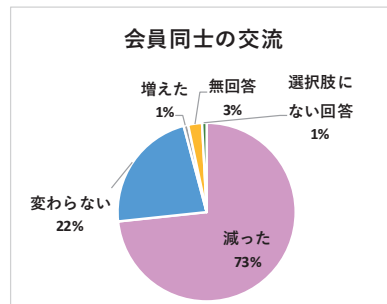
話、活動時間のほか、会う回数や会員相互の親睦を図る機会、意見交換や情報交換の機会などが挙げられています。コミュニケーションに注目すると、コロナ禍で集まることが難しい状態で、オンラインでの活動が手段として期待されますが、一

【問5】

問12. コロナ禍の活動で、会員同士の交流の機会はどうか。

No.	交流の機会	団体数	割合
1	減った	88	73.3%
2	変わらない	27	22.5%
3	増えた	1	0.8%
4	無回答	3	2.5%
5	選択肢にない回答	1	0.8%

120



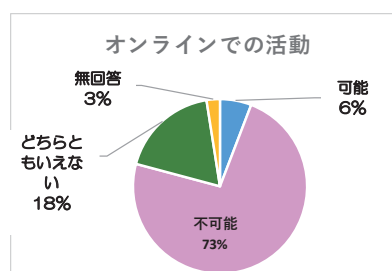
NEやZoom(オンライン会議)を利用しているのは4団体しかありません。また、インターネットを利用したオンラインでの活動については、73%が「不可能」と回答している(図6)ので、SNSやインターネットに活動の活路を期待するのには限界があるよ

【図6】

問17(3). インターネットを利用したオンラインでのサークル活動は可能ですか。

No.	オンラインの活動	団体数	割合
1	可能	7	6%
2	不可能	88	73%
3	どちらともいえない	22	18%
4	無回答	3	3%

120



うです。ただし、不可能な理由は、会員が高齢でインターネットやSNSなどの利用が難しいという側面もあるようなので、ICT(情報通信技術)の研修を行うことで、使えるようになる人が増えるかもしれません。※アンケート総括は数回に分けて掲載予定です。

お母さんと一緒に教室が開講



▲お母さんと一緒に七夕飾り

「お母さんと一緒に教室」(全16回)の「開講式」と第1回「七夕飾り」が7月1日(金)に行われました。こどものお部屋に集まってきたお母さんと子どもたち8組16人を講師の根岸恵美子先生が迎え、子どもたち一人ひとりに呼びかけながら名札をつけてくれました。1歳半から3歳の小さな子どもたちはもう根岸先生になついています。

開講式は公民館の清水館長のあいさつから始まり、学級長、副学級長、会計の3人、そして、根岸先生のあいさつで終わりました。

第1回の教室は「七夕飾り」。講師が準備してくれた織り姫と彦星に子どもたちがフレヨンなどで顔を描

いて丸い紙に貼りつけ、小さな星を飾りつけたら出来上がりです。それから家で書いてきた短冊をお母さん方が読み上げました。お母さんの短冊は家族が健やかであることを願ったものが多く、子どもたちの短冊はクレヨンで絵を描いたかわいらしいものもありました。子どもたちはお母さんと一緒に外へ出て、用意した竹に飾り付けをしました。

最後に七夕飾りの下で記念撮影をし、明るく和やかに第1回の教室は終了しました。



▲七夕飾りの前で集合写真

第17回少年の主張

みどり市大会開催

第17回少年の主張みどり市大会が、6月25日(土)グリーンエイホールP.A.L.で開催されました。

この事業は青少年健全育成活動の一環として行われ、各中学校代表の生徒10人が日頃考えている学校や社会での出来事、また生活を通じて感じている事などを題材に発表します。

コロナ禍のため今年度も密を避け、縮小して開催されました。

当日は発表者が、自らの主張をはっきりと説得力の



▲(左から)金子紗榎さん、齊藤絵心さん

ある表現で伝え、来場者は皆感銘を受けていました。その後、審査員5人が最優秀賞2人を選考しました。

選ぶのに時間がかかる程、皆優秀でしたが、次の2人が最優秀賞に選ばれました。

最優秀賞
「魚のため、きれいな海を今ここに、」
笠懸南中学校3年 金子 紗榎

「英語で『楽しむ』」
大間々東中学校3年 齊藤 絵心

最優秀賞2人は東毛地区大会に出場します。次の大会でも頑張ってくださいと思います。

優秀賞
「普通」って『ふつう』じゃないかも!?」
笠懸中学校3年 藤生 知花

「より良い町づくりを」
あずま小中学校3年 足立 千莉

「私を成長させた出会い」
大間々中学校3年

ド・ホアン・バオ・ゴック
「私は私」
大間々東中学校2年 小林 心優

「言葉の力」
笠懸南中学校3年 大内 蓮

「身近なことから平和を作る」
大間々中学校3年 糸井 孝助

「いじめのない世の中へ」
あずま小中学校3年 柳澤 羚斗

「ジェンダーがもっている意味」
笠懸中学校3年 小澤 亜由乃



▲少年の主張みどり市大会入賞者

いきいき 活躍⑦

みどり市立笠懸南中学校野球部は、2021年11月の県予選大会で初優勝し、今年3月に開催された文部科学大臣杯第13回全日本少年春季軟式野球大会に県代表として出場しました。

取材に伺うと「こんにちは」と大きな声で挨拶をしてくれ、礼儀正しい生徒たちですがうさぎさを感じました。

2年前、入部するも新型コロナウイルスの影響で分散登校になったり練習や試合も制限され、グラウンドの草むしりから始まったそうです。部長の稲葉太一さんは「練習ができるようになつてからは野球ができることに感謝し、一球一球大事にしました。みんなと一緒にでき



▲背中に阿吽の文字

たことがよかった」と勝因を語ってくれました。スローガンは「阿吽の呼吸」、心を強く持つて試合に臨んだそうです。

顧問の先生は「数年前は部員が少なく他校と合同チームを組んでいましたが、現在の部員は約30人、野球を本当に好きな子が集まっています。笠南中出身の先輩たちが教えに来てくれるほど、素直な生徒たちです。自主性に任せています。」と笑顔で話していました。これからも活躍を期待します。

3年ぶりの

七夕おはなし会

読み聞かせグループあしの会による「七夕おはなし会」が7月2日(土)、笠懸図書館で開かれました。

就学前の子どもたちやその兄弟姉妹を対象に6組の親子20人が参加しました。パネルシアター『やおや

さん』では参加者との掛け合いがあったり、『ぴよん』の絵本ではお話に合わせてお父さんたちが子どもを持ち上げたり、色々なお話を楽しんでいました。

3年ぶりの読み聞かせにあしの会のメンバーは「直接、子どもたちの反応を見ながらお話ができてよかったです」と喜んでいました。終了後、みどモスとの撮



▲あしの会による読み聞かせ

コラム豆電球



「なぜ、お中元を贈るようになったのか？」

お中元の季節には贈り物の風習があるが、いつたいなぜなのだろうか。現在のお中元は、じつは百貨店の販売戦略が生み出したものなのだ。明治44年、ある呉服店が、広告を打った。

「中元来り、中元来り、お盆の御使いしものは、東京なる〇〇呉服店へご注文あそばせれば早速御届け申上ぐべし」要するにお盆の進物は、

うちでどうぞというCMだ。この明治末のサマーセールは当たり前で、他の百貨店も次から次へと、あつという間に夏の贈り物を「お中元」と呼ぶことが定着した。

もっとも、「中元」という言葉は昔からあった。中国の道教の教典である真書にある言葉で、1月15日が上元の日、7月15日を中元の日、10月15日を下元の日と呼んだことが、この言葉の始まりだ。

これが日本に入り、江戸時代、徳川幕府は、ほぼ年の真ん中にあたる中元を、特別のあいさつを交わす日に定めた。大名が白装束で

登城して将軍に拝謁する日になったのだ。

一方、それとは別に、庶民の間では、7月15日(現8月15日)、つまりお盆に、贈り物を交換する習慣があった。呉服店はこのらをうまく組み合わせ、中元の日には贈り物という習慣を日本人の間に浸透させたわけである。

もともとはお盆に贈り物の交換だったが、現在では旧暦に合わせるかのように年々早くなりつつある。これも販売戦略なのだろうか。

新年度の活動開始

笠懸町婦人会

笠懸町婦人会（曲澤節会長）の定期総会が5月13日（金）、笠懸公民館で開催されました。

来賓に笠懸公民館の清水館長と高橋主事を迎え、館長から婦人会の日頃の活動に対し、感謝と励ましのあいさつがありました。

総会では、令和3年度の事業報告や決算報告、令和4年度の事業計画や収支予

算案が承認されました。

コロナ禍のため、3年ぶりの対面での総会となりましたがまだコロナの影響があるため、密を避けての開催となり、新役員紹介の後、早々と総会は終了しました。

5月27日（金）には、笠懸公民館サークル活動室3で行われ、それぞれの役割分担や今後の事業のあり方などが話し合われました。

「コロナが収束したら社会や地域のためのボランティア活動も頑張りたい」などの発言や、「予定には入

っけても中止が続いている新年会や親睦会も3年ぶりにやれるといいですね」と顔合わせでさまざまな意見が出ていました。



▲笠懸町婦人会定期総会の様子

防災を考える

20

防災士

防災に興味のある方、防災活動をしてみたいという方にお勧めしたいのが防災士という民間資格です。

阪神淡路大震災を教訓として、社会全体の防災力を高めるために防災士制度は生まれました。「自助、共助、公助」の自助、

共助の場面で活動するため、日頃から防災についての十分な意識と一定の知識、技能を持ち、防災リーダーとして家庭や職場、地域において、何ができるのか、何をすべきかを主体的に考え、地域の防災力、人的ネットワークのつなぎ役としての活動が期待されます。

笠懸町にも8人の防災士がいて、自主防災組織や県防災士会などで活動しています。みどり市でも毎年、

自主防災組織の役員などを対象に、防災士養成講座の受講者は行政区から推薦や受講費用の一部を補助されます。

来月の公民館だよりでは防災士のインタビューも予定していますのでお楽しみに。



こえのひろば

投稿

初心者教室のご案内

笠懸地域文化協会では、「初心者教室」の受講者を募集しています。当会所属の専門講師が親切丁寧に初歩から指導します。

●書道教室

開催日 9月8日～10月20日の毎週木曜日 計7回
会場 笠懸公民館
サークル活動室4

参加費 700円程度（半紙・手本等）※開催日集金

定員 先着15人

持参する物 書道用具、新聞紙、お手拭き

●フラダンス教室

主な内容

- ①ハワイアン
- ②歌謡フラ
- ③キッズフラ※小学生対象

開催日 9月3日～10月29日

このコーナーは、市民のみなさんの交流の場です。サークルの会員募集やイベントのお知らせ、投稿など、何でも原稿をお寄せください。（しめきり毎月10日）

日の毎週土曜日 計7回
会場 笠懸公民館
音楽室1

参加費 無料

定員 先着20人

持参する物 ハーフスカート（ある方）、上シューズ

●舞踊教室

開催日 9月4日～10月30日の毎週日曜日 計7回
会場 笠懸公民館
音楽室1

参加費 無料

定員 先着15人

持参する物 ゆかた、たび、ひも3本、半帯、コーリンベルト※お持ちでない方はこちらで用意します。

【3教室共通】

開催時間 午前10時～正午
申込方法 8月20日（出）までに笠懸公民館まで来館または電話でお申し込みください。（TEL762211）

※みどり市内在住・在勤者に限りです。

主催 笠懸地域文化協会

テクテクお城歩き(30) 弘前城 歩遊人



▲弘前城

日本100名城のひとつ弘前城は青森県弘前市にあります。津軽地方を平定した津軽為信の志を継いだ子の信枚が1611(慶長16)年に築城したようです。天守は五層でしたが、1627(寛永4)年落雷で焼失しました。現在の天守は1810(文化7)年、本丸の辰巳櫓を三層に改築して天守の代用にしたといえます。関東、東北地方に唯一現存する天守です。広大な弘前公園に足を踏み入れれば五つの城門(北

門、南内門、東内門、追手門、東門)、三つの隅櫓(丑寅櫓、辰巳櫓、未申櫓)に目が奪われます。いずれも国の重要文化財となっています。現在、天守は石垣の修理のため元の位置から約70m移動されています。また、公園には樹齢130年を越す日本最古級のソメイヨシノや数々の巨木があります。そして、お城とサクラの花と雪をかぶった岩木山(標高1625m)は絶景で多くの人を魅了させてくれますね。



▲天守から望む岩木山

列車にゆられて(53) 鹿島臨海鉄道

野利 哲



▲鹿島神宮駅

鹿島臨海鉄道は、水戸駅〜鹿島サッカースタジアム駅53.0kmからなっています。鹿島サッカースタジアム駅は臨時駅なのでサッカークリの試合の開催日以外は止まらず、列車は3.2km先のJR線鹿島神宮駅まで走りま

す。水戸を出た列車は市街地を抜けると高架線で大洗駅まで走ります。大洗駅には本社や車両基地があり、賑わいを見せています。また、水戸〜大洗間は列車本数が多いですね。大洗から線路は民家が点在する田園地帯を南下していきます。途中、北浦湖畔駅のホームから北浦が望めます。素敵な光景で、無機質な情景を払拭させてくれます。そして、長い駅名「長者ヶ浜潮騒はまなす公園前」駅を過ぎると鹿島サッカースタジアム駅です。ここから、左に延びる線路が貨物線で奥野谷浜駅まで続いています。鹿島神宮駅はJR線の駅です。左手の高台に鹿島神宮があります。駅から歩い

て約1kmなので散策をお勧めします。境内の史跡巡りは、思いがけない発見があるかもしれません。鹿嶋市では剣豪塚原ト伝とともに観光に力を注いでいるようです。

運賃は水戸〜鹿島神宮片道1590円、70歳以上限定のフリーキップ(ねんりんキップ)は1500円。



▲大洗駅前広場のカジキ漁のモニュメント

笠懸短歌サークル

六月例会より



銀竜草ユウレイ草とも云ふらしき樹陰にひそと半透明に
夫と二人大阪行きは娘宅心躍らす童のやうに
五月雨降りて紫陽花しつとりと青紫・バラ色花束に見ゆ
みかんの木の下の草刈りて横たはるひとり身の自由五月の風と
優しさと解りをれども運転を規制する娘に老の意地言ふ
ともどもに細き目をして笑みてをり父と母とが並ぶ遺影は

- 上村 征子
- 加藤 康子
- 久保田茂子
- 近藤ふさ子
- 関口 定夫
- 平山 勇

上毛かるた④ 御朱印レディー

「草津よいこ」

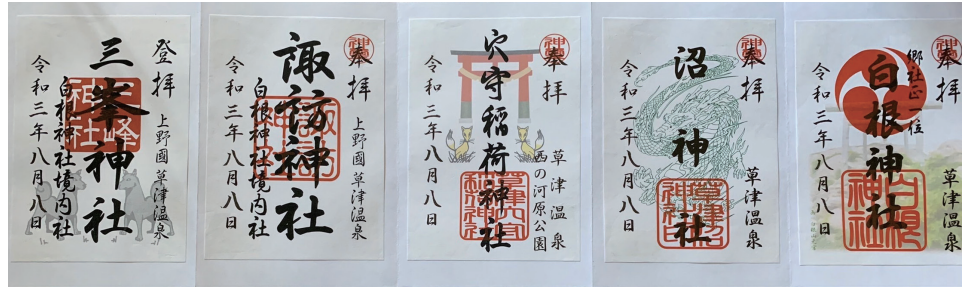
薬の温泉

「草津よいこ」薬の温泉」の草津温泉は、日本の三名泉（草津温泉・有馬温泉・下呂温泉）の一つに選ばれ、湯もみや湯畑も見どころになっています。

その湯畑の中央奥に石段があり、そこを上ると光泉寺があります。光泉寺は白根明神の別当寺として正治2年に再建したとされ、真言密教の寺院です。境内には、温泉観音・湯善堂・地藏菩薩・入浴逝者供養塔・湯浴み弁財天などがあります。



▲(左から)光泉寺・妙立山日晃寺の御朱印



▲(左から)三峯神社・諏訪神社・穴守稲荷神社・沼神社・白根神社の御朱印

す。古くから日本三大温泉薬師として草津温泉を守ってきたことが窺えます。 囲山公園には、白根神社があります。そこでの御朱印は書き置きになります。白根神社・沼神社・穴守稲荷神社・諏訪神社・三峯神社と5社も頂けます。

四季の会 七月句会



二才児の頼つべの歪む初ラムネ
独り住む母の土産のところでん
残業の終りを告げる夏の月
はしやぐ児の浴衣の袖の丈をつむ
髪洗ふタオルドライで済ます朝
妣の日記しづかに捲る夏夕べ
久にくる娘のでんわ土用丑
雷に追はれて帰る我が家かな
草むしる夫の背中の草の色
白南風や児らは元気に育ちをり
鈴生りの近所に配る庭の枇杷
日盛りの稽古はしばし休みとす
帰省子の賑ふ部屋の昼餼どき
さくらんぼ先ずは仏に供へをり
開催の決まりて桐生夏祭り
寿司を食べ猫と語るや夕端居
掃けば散る掃けば散りぬるさるすべり
鎌倉の紫陽花寺のふたり連れ
素麺の薬味あまたの昼餼かな
留学は若き日のこと梅雨明くる
デコイチの走るふるさと帰省せり
力抜く長寿のひけつ夕涼み
高齢の犬の二匹と木下閣
庭採れの梅干を干す三日三晩
骨切りの妙技盛り付く鱧の皿
鉢の水たつぷり撒きて日の沈む
老ひ二人あれそれで足る熱帯夜
汗を拭き坂を登りく修道女
日のしづむ頃を待ちかね墓洗ふ
夏の朝しづもる湖の観光船
炎天下子らの現場に鶏弁当
砂浜を裸足で駆くる孫ふたり
浴道は夾竹桃の花盛り

中野 千鶴
宮本 風花
糸井 良俊
松島 陽春
平川 秋桜
佐藤由美香
高野 春蝶
窪田 友美
中谷 邦女
金井 英磨
高野 光詢
糸井 佳醉
窪田 劍邦
前原 紫蘭
童 鳥海
糸井 梅光
横倉 雅
韓 百日紅
新羅 光海
石原 青蓮
冠 二郎
徳田 夕子
村田 紅蘭
糸井 初音
小林 狐一
吉田 和義
小林 華笑
金井 光順
榎沢 春蘭
宇野由希子
村田 小町
宇野 勘大
金 光月

ちよっと一息
情報化社会は、いろいろな情報が入手でき、とても便利な世の中だ。
趣味程度と思ってもマニアの域まで達することもできる。世界中の同じ趣味同士の人と、情報交換や共有することさえもできる。解らないことも簡単に自力で調べることもでき、欲しいものも手に入る。昔、映画や漫画で夢見てたことが現実になっている。
そんな便利な世の中だが、人との会話が少ない気がする。コロナ禍で益々少なくなったかもしれない。
「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」というが、人に聞かなくても調べられてしまう。しかし、会話というものはとても大切なコミュニケーションだ。いろいろな便利ツールはあるが、人と人が顔を合わせ、会って話すということこそが人を成長させるものではないかと思う。
という記事を書く自分はまだに成長しない大人なかもしれない。
(Ka)